

創立40周年記念式典 式辞

本日は、新潟県教育庁高等学校教育課長 藤井人志 様、歴代の校長先生方はじめ、多数のご来賓のご臨席を賜り、本校創立40周年の記念式典を挙げることは、私どもにとってこの上もない喜びであり、衷心より厚く御礼申し上げます。

本校は、昭和54年、「新潟東地区に県立高等学校を」という地域の願いを受け設立された94番目の県立高等学校です。爾来、およそ1万2千名にも及ぶ有為の卒業生を輩出し、地元はもとより、全国各地で活躍していることは周知の通りです。

さて、昭和54年というと、初の国公立大学共通一次試験が導入された年であり、現在は私立大学も参加する大学入試センター試験へと形を変え、来年度以降には民間試験を導入する方向が検討されるなど、大きく様変わりしようとしています。また、翌年には司馬遼太郎の『項羽と劉邦』がベストセラーとなった時代でありました。

思うに、学校は劉邦軍のように、様々な才能の持ち主の集まりなのではないでしょうか。劉邦は、そのそれぞれの才能を最大限生かし、組織として機能させたから勝利を得たのではないかと思います。一人ひとりの個を伸ばすことは大切です、その上で学校としての組織力として結実させる必要があると私は考えています。こうした意味において、今まさに、本校の力が試されている時代となっているといっても過言ではないでしょう。

昭和、平成、そして令和と時代が移ろう中で本校は生き抜いて参りました。その不易の部分は、一貫して勉学に、部活動にと「新潟東高等学校」の名の下に励むことであります。一方、流行については、時代の要請を受け、総合的な探究の時間を他校に先駆けて取り組むことであります。昨年、全教職員で本校で育てたい生徒像について次のように考え、共有を図ったところです。

それが、「自分を知り、地域を知り、自らの役割を考えて主体的に行動し、困難を乗り越え、粘り強く取り組む生徒」です。こうした生徒を育てるため、日々の教育活動を懸命に行っているところです。

生徒の皆さんには、日々の何気ない日常をただ漫然と過ごすのではなく、何かを感じ、気づく目を養うよう心がけてほしいと思います。

さて、皆さんは万葉の歌人である、大伴家持という名前は聞いたことがあるでしょう。家持は、

「あゆの風 いたく吹くらし

奈呉の海人の 釣する小舟 漕ぎ隠る見ゆ」と歌を詠んでいます。歌中のあゆの風というのは、東の風のことです。これは当初春の季語でしたが、現在は

夏の季語で、日本海沿岸で沖から吹く夏のそよ風のことを意味します。また、海から種々の珍しいものを打ち寄せてくれる好ましい風とされ、北前船は、日本海北部海域からこの風に乗って上方方面へ航行したということです。折しも今年には新潟港開港150年の節目の年に当たります。東高で学び自ら吹かせる風に乗って、そして同窓や多くの仲間が吹かせる風に乗って、全国に、そして世界に羽ばたいていくことのできる生徒になるとともに、地元のために自らの才能を生かしてもらいたいと考えています。先を見通すことができない混沌とした時代に皆さんは自分の力で自分の未来を切り拓いていくしかありません。皆さんの今後の学びに期待しています。

結びに、創立40年を迎えたことをひとつの節目として、ラグビーワールドカップで歴史を変えた日本代表のごとく、本校は生徒、同窓、保護者、教職員、そして地域の方々とともに、ワンチームとして今後さらに精進を重ね、歴史を刻んでいくことをお誓い申し上げ、式辞といたします。

令和元年11月2日

新潟県立新潟東高等学校長
富 樫 信 浩